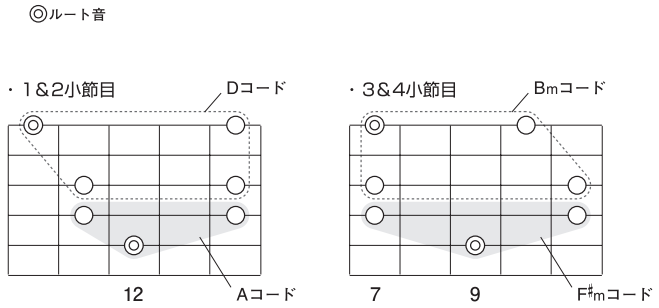
入隊・伝授・出撃・決戦・終幕

注意点1 理論

2つのコードを合体させて テンション感を生み出そう！

このメイン・フレーズでは、テンション音を加えた応用ポジションを使用している。1小節目4拍目などでは、基本のDコードに7th音（C♯音：4弦11フレット）と9th音（E音：4弦14フレット）を加えているのだ。ただし、ポジションだけを見ると、この部分はAコードのトライアドと同じなので覚えやすいだろう。3&4小節目も同様で、Bmのトライアドの中にF♯mのトライアド・ポジションを取り入れて、7th音（A音：4弦7フレット）と9th音（C♯音：4弦11フレット）を加えている。音楽理論的には、どちらも基本コード（DコードとBmコード）に5度上のコード（AコードとF♯mコード）を組み合わせているのだ（**図1**）。現代的なポジションとも言えるので、ぜひ覚えよう。

図1　2つのコードが融合した左手ポジション

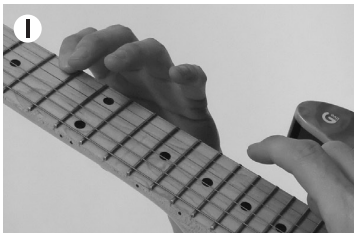


Aコード＆F♯mコードのポジションを組み合わせることで、テンション音を加えることができる。

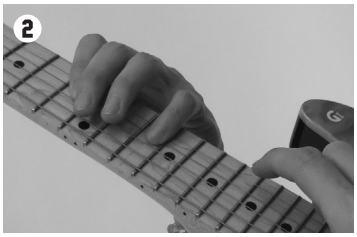
注意点2 左手

弦跳びタッピングでは 人差指と小指をセットで移動！

左手小指先行型のタッピング・フレーズ【註】はとても難易度が高いが、このメイン・フレーズではさらに弦跳びも行なうので注意が必要だ。1小節目1&2拍目では、1弦10フレットのあとに、弦跳びして3弦14フレットを左手小指でタッピングするので、正確な弦移動と併せて小指をしっかり振り上げて弦を叩こう。また、2拍目の最後に3弦11フレットにプリングで繋げるので、小指と同時に人差指も11フレット上に弦移動するとスムーズなフィンガリングになる（**写真①～④**）。このように小指と人差指を同時に動かすと左手全体を使って弦を叩けるので、小指のタッピングの音量も稼げるというメリットもあるため、必ず小指と人差指をセットで動かそう。



1小節目1拍目。続く3弦への弦移動を意識しておこう。



小指と人差指をセットにして、3弦に移動すること！

右手による19fのタッピング後に……

プリングで、小指による14fに繋げよう。

～コラム27～ 教官の戯れ言

著者・小林信一、かく語りき キコ・ルーレイロ編

著者は、キコ・ルーレイロを人間の能力を越えた正確無比なプレイをくり広げる“デジタル系超絶ギタリスト”として認識している。彼は音楽理論に裏付けされたメカニカルなプレイを得意としているので、ジョン・ペトルーシと共通する部分が多い。ブラジル出身ということで、バックボーンにはボサ・ノヴァをはじめとしたラテン・ミュージックもあって、特にソロ作品ではメタル系ギタリストとは思えないスタイリッシュなジャス風プレイを披露している。以前、彼の教則ビデオも観たことがあるが、ものすごいスピードでペンタを弾くその姿は、本当に衝撃的だった。

アングラ
『エンジェルズ・クライ』
1993年に発表したデビュー作。クラシックの要素を取り入れたシンフォニックなスピード・メタル・ナンバーが満載の強力作になっている。

キコ・ルーレイロ
『ウニヴェルソ・インヴェルソ～キコ・ルーレイロのブラジリアン・ジャズ・グループ的観点の紹介』
メタル系の枠を越えたハイ・センスなジャス・プレイを聴かせる。

【左手小指先行型のタッピング・フレーズ】左手のタッピングは、通常のハンマリングと異なり、指を跳ねるような感覚で弦に打ちつけると綺麗に発音できる。無駄の少ない最小限の力を使って、滑らかに演奏するように心掛けよう。